

裁判員経験者との意見交換会を行いました。

令和4年7月20日、4名の裁判員等経験者にお越しいただき、裁判官、検察官、弁護士も交えて、意見や感想、気になったことなどを伺いました。

●全体を通じて

参加する前は怖いと思っていたが、審理の際は被告人と接触しないよう配慮されており、心配は払しょくされた。

ほかの裁判員や裁判官と様々な意見を交換することができるなど良い経験をし、人生の財産になった。

チームとしての一体感を感じることができた。また参加したい。

アメリカの陪審制度のように裁判官とは異なる立場で参加するのかと思っていたが、裁判官と横並びで審理に参加することに驚きを感じた。

刑事事件なので重苦しいイメージだったが、参加してみると、話しやすい雰囲気を作ってくれて、参加して良かった。

●評議のあり方について

どんな些細な意見も拾ってくれた。一極化することなく議論が盛り上がった。

自首などの法律用語について、一般的な理解と異なることがあった。

ほかの裁判員の意見を聞いて、意見を少しずつ変えることになった。

述べた意見に対し、裁判官がその意見をさらに掘り下げる場合とそうでない場合があり、意見によって扱いの差を感じることがあった。

裁判長が先に意見を述べたため、率直に意見を言うことが難しかった人もいたのではないかなと思う。

審理後の評議には、自分なりの結論を出した上で参加することができたし、自分の意見は率直に言えたと思う。



●審理のあり方について

証人尋問や被告人質問で、質問の趣旨がよく分からないことがあり、質問者に趣旨を確認したいと思うことがあった。

検察官や弁護人の冒頭陳述を聞くことで、事件の争点や全体像を把握することができた。

医師が証人だったが、証人がその都度、専門用語の解説をしてくれたため理解できた。

法廷で、否認している被告人に対し、検察官が核心部分について弾劾せずに、周辺部分ばかり質問している印象を受けた。

裁判官が休廷中に説明を加えてくれたため、裁判をしっかりと理解することができ、補充尋問の準備ができた。

弁護人と被告人の意思疎通が十分でなく、弁護人の主張に被告人供述の内容を寄せて主張しているように感じた。

●今後の裁判員裁判に望むこと

裁判員裁判を経験したことで、問題を一人で抱え込んではいけないことなどを学ぶことができたので、若い人にもぜひ経験してもらい、自分や周りの人に目を向けられる人が増えてほしい。

働いている人が連続した期日に参加するのは現実的に難しいと感じたため、参加しやすくなる方法を考えてほしい。

裁判員としての経験を周りに話すと、身構えるような反応であるのが現状であるから、裁判員裁判のイメージを改善するような努力をしてほしい。

量刑については社会情勢の変化を踏まえる必要があり、過去の量刑傾向を形式的に参照するというのは疑問である。



裁判所ナビゲーター さいたん

今後の運営の参考となる貴重なご意見をいただきました。
ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

司会：安永健次裁判官